

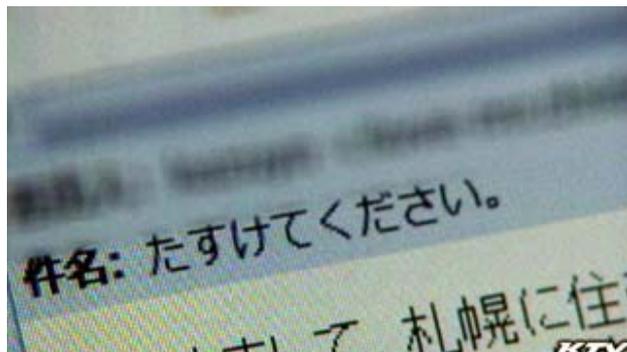
18時台の特集/バックナンバー

Back number

[目次](#) > 2011年4月7日放送の番組バックナンバー

▼ 被災地からのSOS アレルギー対応食を

日本では乳児の10人に1人が食物アレルギーに悩まされていると言われています。震災の被災者の中にも卵や小麦粉を摂取できない人がいますが、なかなか支援の手が回らないのが現状です。食物アレルギーに苦しむ被災者を助ける取り組みを取材しました。



「助けてください」「年長の男の子に卵、甲殻類のアレルギーがあります」
「2歳3か月の息子にアレルギーがあります」
「残りの食材でどこまで持たせたらいいのか分からず不安になります」
被災地などから届いた悲痛なメール。
書いたのは食物アレルギーの子どもを持つ親やその友人たちです。

名古屋のNPO法人「アレルギー支援ネットワーク」には、震災が起きたその日から救いを求める電話やメールがおよそ40件寄せられました。
【アレルギー支援ネットワーク理事・中西里映子さん】
「みなさん必死で『被災地に友達や家族がいるので助けてくれ』と。何十件もメールが入ってくるので、そのSOSが漏れないようにみんなの目でチェックしています」
日本では乳児の10人に1人が食物アレルギーに悩まされていると言われています。卵や牛乳などアレルギーの原因となる特定の食べ物を摂取すると、発疹や下痢、嘔吐などの症状を引き起こし、場合によっては命にかかわることもあります。
【岐阜大学大学院・寺本貴英准教授】「アレルギー用のミルクということで、3か月4か月のミルクアレルギーの患者だとこのミルクしか飲めないのです、これがないと命にかかわる。

かといって、これ以外のミルクを飲むと下痢をしたり発疹がでたり、場合によってはアナフィラキシーといって食物アレルギーの一番重い症状になったりすることがあるので、アレルギー対応粉ミルクが絶対必要になる」



たくさんのSOSを受けて「アレルギー支援ネットワーク」は食物アレルギーの人でも食べられる食品を集め、被災地にある支援団体に送ることにしました。食品は現地の支援団体から避難所にいる人たちに直接、届けられます。岩手県盛岡市の支援団体は、震災の10日後から食物アレルギーに対応した食品を被災者に配っています。

【盛岡アレルギーっ子サークル「ミルク」・藤田絢也さん】

「地震直後に全国のNPO法人から連絡がきまして、届けたいんだけどどうしたらいいという連絡が結構きてうちに送ってもらったりして、あとはニーズ調査をして届けてる」陸前高田市の避難所では、津波で家を失った親子が藤田さんの到着を待っていました。

【女性】「すいませんわざわざ」

17歳の娘は小麦などの食物アレルギーがあるため、パンや小麦粉を使ったおかずを食べると体調が悪くなります。

【藤田さん】「他にも足りないものがあればまた持ってきますので」



炊き出しや救援物資に頼らざるを得ない避難所では食べ物を選ぶことはできませんでした。

【アレルギーの娘を持つ母親】「我慢させて食べさせてましたね。それしか来ないんで、贅沢なんか言ってもらえないんで。来たものを食べさせてました。(症状は)だんだんひどくなる一方だった。特にうちの娘は大きかったんでちょっと言い出しにくかったんです。小さい子どもだったら、たぶんすぐ言えたんでしょうけど、我慢できる年齢だったんで我慢させてたんです」

避難所の外にもアレルギー対応食品を求めている人がいました。

大船渡市に住む村上さんは、食物アレルギーの赤ちゃんを持つ母親にボランティアで物資を配っています。

【村上さん】「通常のミルクもいっぱいいただいでるみたいで、行政にお願いしたらもらえる状況なんですけど、アレルギーとなると対応できないという返事しかもらえない。普通のミルクを飲んでも吐いたり下痢や湿疹が出た子もいる」



中にはアレルギーのために避難所に入れず救援物資を受けられない家族もいるといいます。
「親が環境を整えようとして個人宅に移るんですよ。その結果、ものがもらいづらい」
【藤田さん】「今ニーズを取ってるんですけど、実際まだまだ困ってる人いると思う」
誰にも相談できずに、我慢している食物アレルギーの人は大勢います。
「アレルギー支援ネットワーク」は、支援の手が届かない人たちを救うために避難所などにチラシを貼り続けています。名古屋の事務所にはチラシを見た人からの相談が徐々に寄せられるようになりました。支援の輪は少しずつ広がっています。

「アレルギー支援ネットワーク」をサポートするため、大阪でも募金活動が始まりました。
立ち上がったのは幼い子どもを持つ母親たち。子を思う親の気持ちに変わりありません。
【ママサークル代表・吉澤有香里さん】「最近アレルギーのメンバーが多い。アレルギーの子は普通のこと違ってすごく気を使ってるというのをメンバーの声として聞いたので、被災地のママはすごく困ってるだろうな、アレルギーに特に困っているだろうなと」
3日間でおおよそ9万円が集まりました。
大阪の母親たちが集めた義援金は直接名古屋の「アレルギー支援ネットワーク」に届けられました。
この日、また新たにアレルギー対応の食品を積んだ車が被災地に向けて出発しました。
あまりに大きな被害の影で、見えにくくなっているものがあります。
「小さなSOS」を埋もれさせないために私たちに今、何ができるのでしょうか。



「アレルギー支援ネットワーク」では、被災地で苦しむ食物アレルギーの人たちのための「支援金」を集めています。
郵便振替口座はご覧の番号で、寄付する際は、必ず「支援金」と記入して下さい。

2011年4月7日放送

[戻る](#)

